

「暑すぎた夏」

『地球沸騰化の時代に入りました』のニュースから数か月。12月に入ってもコートがいらずばかばか陽気が多い毎日。今年の夏が暑すぎた影響からか地元の人達から「野菜がなくても腐る」「野菜の花が咲かない。咲いても落ちて実がならない」などの声をよく耳にしました。

11月後半の毎年恒例になっていた干し柿作り。いつも採らせていただくお家も他の家も柿がならず、作る事が出来なくて寂しい秋になりました。毎年オレンジ色の柿を食べにくる何種類もの鳥の姿を見て楽しんでいたのでそれもできません。エサもなく場所を変えたのか、鳥の数も鳴き声も少なく感じます。

四季がなくなり二季化になる。生態系がかわってきた。そんな環境のニュースに日本の反応は海外より薄い気がします。なぜ各地で災害が増えてきているのか、物価が高騰するのかなどの原因について少しの関心をもって考えてくれると何かが変わってくるんじゃないかと、ふと思う事があります。この異常気象が通常気象にならない事を願いながら、自分自身も少しでも環境に優しい暮らしを心がけて過ごしていきたいと思います。

(エコビレ指導員 田川由美)



編集後記

福井県支部のメンバーにも、講師としてお願いした「生きもの目線で今夏の猛暑を考える」(10/28開催)は、我ながら「いい企画！」だと思ったのですが、残念ながら参加者が少なかったです。この夏の猛暑により今までと変わったと感じる事、このまま続くと生態系にも響く事等、熱く語っていただきました。

地球温暖化を他人ごとにはせず、できることから始めようと、20年前から言っているような気がします。どう取り組んでいくといいのでしょうか。

できることからコツコツと、だけではダメなような気がします。

本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます

(野村)

越前市エコビレッジ交流センター 【住所】 福井県越前市湯谷町 25-25-2

Tel/fax 0778-28-1123 E-mail info@ecovilg.jp

URL <http://www.ecovilg.jp/>



～風だより～

こうのとりの

第8号
2024.1.1

越前市エコビレッジ交流センター
(公財) 日本鳥類保護連盟福井県支部

交流会に参加して

日本鳥類保護連盟福井県支部事務局 野村 みゆき

あの驚異的な酷暑が続いた夏も、十一月の声と共に紅葉前線の話題に変わり、観光シーズンの真つただ中、京都に行つて参りました。十一月十一日(土)～十二日(日)、北陸ブロック(富山・石川・福井)と連盟京都の交流会が、今年は京都で開催されました。

本部からは、普及啓発室/バードピア推進室の吉田祐樹氏が出席してくださいました



鳥類保護連盟・支部交流会 2023.11.11

吉田氏より会員をもっと増やすべく、ホームページを改良し努力されていることをお聴きし、支部としてももっと仲間を増やしていきたいと思われました。その後、石川、富山、広島、福井、連盟京都の順番で活動報告や問題提起がなされました。石川県からは、河北潟でのコウノトリ繫

殖やトキの話題も出ましたが、やはり風力発電計画に伴う問題提起は、福井も他人ごとではないので、とても気になりました。

富山県からは、行事計画の説明後、環水公園での月例観覧会の十四年間をまとめた報告がなされました。月別の変化がグラフにより分かりやすく説明され、興味深い内容でした。

今回初めて広島県支部も参加されて、これまでの支部の歴史や、野鳥保護の取り組みなどが分かりやすく発表してくださいました。

最後、京都からの報告で、ノートリアの監視や巡回をされること、京都生物多様性センターの設立に向けて頑張つていらっしゃることを知り、支部同士がお互いの活動を報告し合い、刺激を受けることは今後の活動に必要なことだと改めて感じました。

懇親会は中華料理の専門店で、丸いテーブルの中で近況報告や意見交換がなされ、充実した時間となりました。

残念だったのは、翌日の鴨川での観覧会に参加できなかったことです。仕事のため朝食を頂くと、後ろ髪を引かれる思いで京都を後にしました。

後日、二時間ほどの観覧会で、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモを始め、全部で二十八種観察できたと報告があり、参加できなかったことが非常に悔やまれて止みません。



越前市坂口地区のコウノトリ情報



3年続けて繁殖に成功している坂口地区（下中津原町）のペア。昨年同様、子どもたちが無事巣立ち、田んぼが黄金色一色になる頃、一緒にいるという姿はほとんど見かけませんでした。

「やれやれ一仕事が進んだわい」というのか、オスの「イチローくん」(J0161)は早々に関西の方に行っております。現在、越前市内でよく見かけるのは、メスの「ななちゃん」(J0078)です。突然、坂口に現れたかと思うと、また、市街地に飛んで行って休憩したり、採餌したりと地区外の方にとってもなじみの個体のようです。

さて、古い話です。昭和45年(1970年)12月、くちばしの折れたコウノトリ「コウちゃん」が舞い降りて坂口地区と、お隣り白山地区を行ったり来たりしていました。昭和46年(1971年)2月、白山地区で捕獲して兵庫県豊岡市の保護施設に移送しました。当時、保護活動の中心的人物が、前福井県支部長の林武雄氏です。林前支部長からは、幾度となく捕獲時の武勇伝をお聴きしています。この子(コウちゃん=豊岡では武生と呼ばれていました)の子孫は大空に飛ばしましょうとの約束が命のリレーとなり、イチローくん(武生のひ孫)が坂口にやってきたというのは奇跡だと思います。この命のリレーが途切れることがない様に、生きものがいっぱいいる自然豊かな環境をつなげていきましょう。



巣の手入れをしているななちゃん(11/14)



白山地区のケージの前(10/6)



よく観ると、うらやましそうに見ているふっくん・さっちゃん

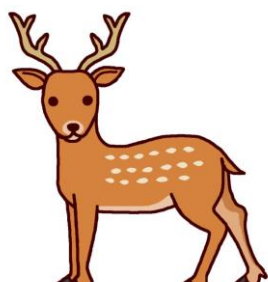
エコビレによくお出でになる方から、「猟師の方に聞いたんだけど、融雪剤をまくことでシカが増えているらしいよ」との情報が。早速、旧知の友に詳しく聞いてみました。以下、原文のままです。

以前から、野生動物がミネラル補給に融雪剤(塩化ナトリウムや塩化カルシウム、塩化マグネシウムなど)を舐めている、という話題があります。

また、山間部であっても、道路の凍結防止(安全確保)のため大量に散布されることで溪流の魚類や卵に影響を与えている、という事もあると聞きました。

更に撒かれているものが、格安な中国産がほとんどなので、成分(海水ならばプランクトンなど)も元々日本には存在しないものが含まれているのではないのでしょうか??

安心安全で便利な生活を維持することは有り難いのですが、目に見えない影響を知っている事も大切です♥



モズのはやにえ

日本鳥類保護連盟福井県支部長 林 昌尚

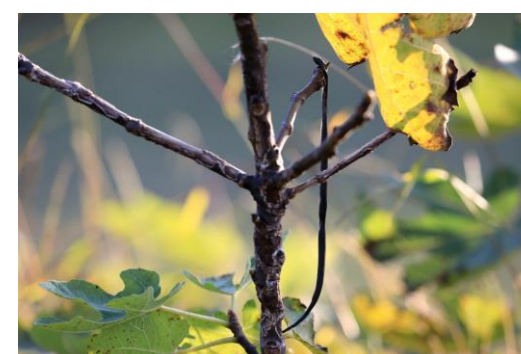
秋も深まる10-11月頃になると、田んぼや庭先にある梅の木やイチジクなど尖った枝の先端に、様々な小動物や昆虫などが刺してあるのを見つけることがあります。バツヤカエル、ケムシやトカゲ、時には小さなヘビまで・・・これは小さな猛禽類：モズが刺したものです。

なぜモズがこのようなことをするのか?最近いくつかの大学の研究で明らかになりました。それは下記のような内容です。

- モズのオスは非繁殖期にだけ、はやにえを行うことが分かった。
- そのはやにえを、オスは繁殖期が始まる前までにほとんど食べ尽くしていることがわかった。
- 繁殖期の前と言えば、オスがメスにアピールする求愛の季節。はやにえの消費量が多いほど、オスの歌の質が高くなり、結果としてそのオスはメスから強く好まれるようになることが、操作実験と野外観察により明らかになった。

●つまりモズのはやにえは、メスへのアピールとなる「歌」の質を高めるための栄養食。求愛で忙しいオスにとって手軽に補給できる高タンパク剤だったのです。

「このはやにえの刺してある高さで今冬の積雪状況が判断できる。」と良く言われますが、さて、今年の冬はどうでしょうか?ちなみに12月6日に散歩中に見つけたはやにえの高さを大まかに測ってみたところ、最も低いもので約1メートル、一番高いものは何と2メートル近くもありました!はてさてどうなることやら・・・。お楽しみ!!



撮影.. 林昌尚

